





追悼文



蝶ヶ岳山頂、背景に槍・穂高

□□□□さんとの山行

□□ □□ □□

□□さんとは三々四回位、山行した記憶が思い浮かびます。一番印象に残るのは、二〇一三年七月二十〇〜二十二日の蝶ヶ岳・常念岳縦走の山行です。約九年前なので、山行記録も無い

し錆ついた頭、なわかつ痛呆気味な脳から回想して書いて見たいと思います。

二本松から七月十九日午後、(故) □□□□さんの車で□□□□さん□□□□さん、私と四名で出発！。大糸線の豊科駅で□□□□さんと合流して、三股登山口



に到着し、駐車場でテント泊。二十日好天気恵まれて登山開始、蝶ヶ岳ヒュッテに無事到着、穂高連峰と槍ヶ岳の大展望を目の当りに鮮烈な印象。ヒュッテのベンチで展望を見ながらの生ビールの美味しかった事、忘れられない。二十一日蝶ヶ岳山頂に登り、テント場のテント登山者の多い事。蝶ヶ岳から尾根伝いに常念岳へ。快晴に恵まれて心地良い縦走でしたが、常念岳の登りとなった時、私の前を歩く□□□□さんの登山靴のソールが剥がれました。応急処置をして常念岳山頂に登り、常念小屋迄無事到着しました。常念小屋で三万円位だったと記憶していますが、高価な登山靴を購入しました。生ビールと食事を終えて部屋に戻る□□□□君が最新の登

十二月五日は、十二月山行、花塚山と木幡山。木幡山は幡祭の日。昨年は新型コロナウイルスの感染防止のため、幡行列は極端に短縮、権立の胎内潜りは行われず、無観客だった。

今年のは市民交流センターで入手した。それによると、八時から一鳥居に幡集合、八時半から二ノ鳥居下の治



羽山神社にて

十二月山行、木幡山幡祭

報告 □□□

十二月五日(日)

山服のファッションショーを始めました。二十二日朝、小屋にヘリコプターが負傷者収容に飛行して来ましたが、常念から三股迄無事下山して、□□□□さんを豊科駅に送り、無事二本松に到着！。この山行は□□□□君が行程を企画してくれ、非常賢沢三味な山行でした。会報の一月号に写真が掲載されていますが、七月二十九日久

保丁「炭火炙り角」で反省会を催しましたが、□□□□さんは埼玉から新幹線に乗り参加して頂きました。この日台風が接近してまして郡山からの東北本線は不通で郡山から会員の方の娘さんの車で二本松迄来た記憶しています。□□□□さんの律儀な人間性に感謝して、ご冥福をお祈りいたします。合掌。

例会でもそのように説明した。参加希望者は□□□□さんと□□□□だけ。事務局宅に八時に来て頂いた。□□□□さんの車に乗せて頂いた。安達駅の脇から、新船橋を渡り、木幡山に向かう。いつもなら、田谷の郵便局南側の新しい太い道を通るのだが、今回は幡が通る細い道に登る。誰もいない。一ノ鳥居の脇も通れた。クライミングウォールの下で止められて、左側行くと駐車場があると言う。行くと見ると右折する極細い道を示された。耕耘機が通るような田んぼの道だ。□□□□さんは果敢に挑戦、やがて、いつも式典をやる治家公園の下の草地に通された。一番奥で、出やすいところに車を駐車、直ぐ上の公園では式典の最中だ。司会は会員で木幡在住の□□□□□□さん。今年、TUFで一月十六日に放送する特別番組の取材で、関係者一杯入っているらしい、そんなことも話された。

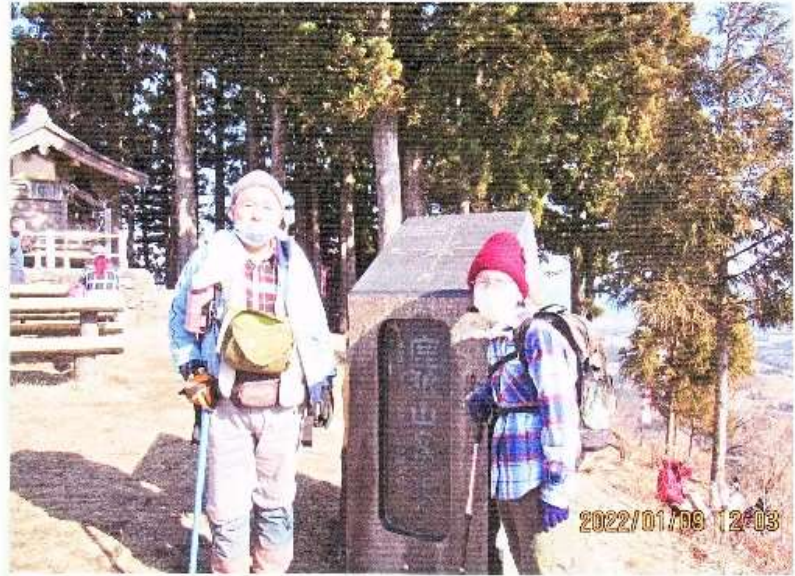


背景は安達太良山

出立を見ようと、クライミングウォール駐車場の曲り角で待っていたら、出立式に参加していた□□□□市長がニコニコした顔で近づいてきて、□□□□さんに話しかけた。□□□□さんも気さくな調子で応じている。やがて権立を先頭に幡行列が下がってくる。市長は其方に向かった。話聞いてみると□□□□さんは□□□市長と同級生らしい。そういえば同じ岳下だ。知らなかった。やがて市長は挨拶して、下っていった。□□□□さんと私は、幡行列追いかけた。道端で写真撮る人は相変わらず多い。やがて幡行列は、私の家から見える、毎晩灯っている街灯の側のお宅の前を通る。そのお宅の方に、二本松から、この明かり見えるんだと話したら、驚いていた。そこから更に登って二ノ鳥居からの参道横切り、駐車場小休止。この先に胎内くぐりに登る道がある。実は二〇一九年十二月十五日に月例山行で登っていた。そのときは誰もいなかったが、今日は賑やかだ。□□□□さんも居て、権立登るから、邪魔になるから登るなら先に行ってくれと言う。慌てて先に登る、十分少々で胎内くぐり。あちこちに取材の関係者が。一番良いところには、既にプロの三脚が。どけられないう、まあ、早い者勝ちだから。待っていたら□□□□さんと権立達が登ってきた。(次頁へ続く)



一月九日(日) (個人山行)、初山行・鹿狼山 報告 □□□□



2022/01/09 12:03

年末から年始かけての寒波で雪の元日。今年の初日の出、おあずけ。午後には雪も上がり、城山方面に約一時間半、一万歩、今年の初歩き。三日には二合田用水ふれあいの森、約二時間半、一万六千歩。五日には山ノ入ダム、二時間、一万三千歩と、雪道を歩く。寒波やコロナで来客無しのさみしい正月は今迄はなかった。

六日より仕事始め。寒波も一段落した一月九日、初山行、鹿狼山へ。十時半、駐車場は満車。駐車スペースを探しているとき早い登山者の車が出たのでラッキー。十時五十分入山、樹林コースに登る事に。途中東屋で小休憩、日陰には新雪が少し残っている。

一番良いところは既に取られていたので、隙間見付けて写真撮らなければならぬ。□□さんの進行で、胎内くぐりが始まる。「権立よばり」という問答は、地元の人ややっているとは思えない、本格的な山伏問答だ。一度聞いてみることを



当日午後3時、霞ヶ城公園から、木幡山丸印、クライミングボード

木幡山幡祭(続き)

楽しみ、東側で、土手枕で手足を伸ばし休憩、手元の温度計は十二度を指していた。一時に下山、四十五分で駐車場へ。帰路、新地町より約師浜から松川浦までドライブ。砂浜を散歩する人、釣りをしている人、小

春日和を楽しんでいる様子だ。相馬道の駅でトイレ休憩、雪の八木沢峠では、一昨年は猪、今回は猿と、ほぼ同じ所で逢うことが出来るなど、思い出に残る八木沢峠。五時帰宅、渴いた喉を冷たいビールで潤す。

お薦めする。結局胎内くぐりは撮影できなかった。胎内くぐり終えて、権立連は羽山神社まで登る。こちらの方は多少広いので、写真撮影できる。「背拝み」「食い初め」等も□□さんの進行だ。「背拝み」は、赤ちゃんがお母さんに抱かれ

て、最初にお参りするとき、背中向きになっていることの表現だ。一通り終わって□□さんはここから下がるといふ。そこで□□さんと並んで記念撮影。あとは権立連の後を追って尾根道へ。追い越して先に隠津島神社境内へ。三重の搭脇の石段、以前に見たときは、幡担いで走って登っていた。今回見て居たら走ったのは一つの「堂社」だけで、あとは歩いて登っていた。本殿の前、幡で一杯になった。一通り礼拝が済んで、みんなが下がる頃、□□さんと私は、更に登って、今年、クラウドファウンディングで修理されている、養蚕神社(元は千手堂)を見に行った。足場が組まれている、本格的な工事行われていた。鐘楼に下がって、第一社務所開いていたので入って見る。どんなもの売っているのか見たかったのだ。御守りや御朱印など。更に歩いて「門神社」そこから参道外れて、展望所に向かう。安達太良山や二本松の市街が見えるのだ。霞ヶ城の白壁よく見える。大七本社も三菱アパルトも目立つ。城山体育館の丸屋根もよくわかる。北小の屋体も見える、その手前自宅だけと双眼鏡でも分らない。木幡山、杉林の山で、展望が効くのは、此処だけだ(山頂は別)。参道

に戻って更に下がって二ノ鳥居、このあたり黒や緑色の「土糞袋」で参道が補修されている。□□さんの話だと、黒や緑色の土糞袋の方が長持ちする、この前借悟台登山道で使ったような土糞袋は直ぐ破れてしまうという。時刻は十二時四十分、あまりに早い時刻なので、□□さんの提案で、昼食は帰宅してからにしようと言ふことになった。二ノ鳥居下の参宿所には今年の十一月初めに「こはたcafe」が開店した。□□さんと一緒に入って、コーヒー頂いた。一杯五百円。駐車場は既にガラガラだった。



背中拝み



今年の権立

◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いのですが、手書きも歓迎、FAXも受信できます。

◆朝日新聞、一月五日(水) 専門誌に聞け「山と溪谷」、登山のいま、四回 □□□□さん 一月二十二日、朝日新聞投書欄、「声」に掲載、「核保有国の共同声明に期待する」。 ◆NHK「百名山踏破」で放送。一月二十六日(水) 十六時五分、「安達太良山」、沼尻登山口から障子ヶ岩經由山頂、二〇一四年夏の撮影。 □□□泊は二〇二〇年一月一七日だから別の山行、一杯撮って居るんだ。会報三七六号(二〇二〇年二月六日)。

編集後記 三九九号



木幡山から、霞ヶ城公園、大七本社